

佳作

## キラキラかがやく妹のおびり

埼玉県熊谷市立長井小学校六年 竹内 咲斗

妹のクラシックバレエの発表会を見て、ぼくは胸がいっぱいになりました。ステージでおどる妹は、いつもとはちがっていて、本物のダンサーのようでした。明かりが妹の姿を照らしたしゅん間、その場の空気が変わった気がしました。

妹がバレエを始めたのは幼稚園のころです。

「バレエがやりたい!!」

と目をキラキラさせて母や父に話していた姿をよく覚えています。それからずっと、毎週木曜のレッスンを楽しみに通い続けてきました。体調が悪い日も、

「少しでも行きたい。」

と言う妹に、母がそっと背中を押す姿を何度も見てきたので、ただバレエが好きかよく伝わってきました。そして、おどることが好きな妹は、じゅんびのときも真げんで、レオタードを整える手つきひと

つひとつとつっても気持ちこもっていました。

発表会の当日、妹はぼくと父に、

「行ってくるね!」

と元氣よく言って、母と楽屋へ向かいました。母がかみを結び、衣装を手直ししながら妹に、

「楽しんでおいで。」

と声をかける様子が印象的でした。そしてその間、ぼくはロビーでドキドキしながら待っていました。

うまくできるかな、きんちょうしていないかなと心配もしたけれど、それ以上に心配をふきとばすような妹の晴れぶ台を見るのが楽しみという気持ち、そしてウキウキの気持ち心が中でとまりませんでした。音楽が流れはじめ、妹がステージに現れると、ぼくの目は自然と妹に引きつけられました。のびのびした動き、まじめなまなざし。妹のバレエが大好きという気持ちがあふれていて、その姿を見たぼくは感動し、ぼくも何かに一生けんめいになってみたいとえいきょうをうけました。ステージ上でおどっている妹は、練習のときよりずっと堂々としていて、やりきるぞという決意も感じられました。発表のあと、妹は、

「楽しかった。」

と笑顔で話していた。その笑顔がとてもかっこよく

見え、少し目がうるんでいた気がしました。

ぼくも最近、体育の時間にみんなで体を動かす楽しさや、協力して何かをやりとげる気持ちよさを感じるようになりました。その体験が、ぼく自身の「やってみたい」ことにつながっているように思います。

妹の発表会を見て、好きなことに向かう力のすばらしさを学びました。ぼくも、妹のように自分の気持ちに正直になり、自分から楽しかったと心から言える日をつくっていききたいです。